

## 第37回（平成30年度）土佐清水市読書感想文コンクール入選作品一覧

＜小学校低学年の部＞応募総数：125

	学校名	学年	氏名	題名
最優秀	清水小学校	1年	今津 蓮	はがぬけたをよんで
優 秀	足摺岬小学校	1年	野村 涼太	「もうひとつのどうぶつえん」をよんで
	足摺岬小学校	2年	山下 永純	「お風呂にはいりたくない」を読んで
入 選	三崎小学校	1年	岡山 暖加	やさしいかいじゅうをよんで
	三崎小学校	2年	川村 萌寧	学校はすてきなたてももの
	清水小学校	2年	小松 和奏	「死」ってなに？

### 【審査評】

- ・低学年なりに、自分の言葉で思いを表現したり、自分の生活と本をつなげて考えてみたりできる作品は、よく読み込めているなあ、と感心させられました。
- ・全体的に「～と書いていて、1・2年生なのに指導がなされている。」
- ・本の内容や本文を写して、「～と思いました。」で終わってしまっている。または、あらすじだけで終わってしまっている作品が多かった。

## 第37回（平成30年度）土佐清水市読書感想文コンクール入選作品一覧

＜小学校中学年の部＞応募総数：138

	学校名	学年	氏名	題名
優 秀	清 水 小 学 校	3年	仮谷 寧	「やさしさといのちの大切さ」
	三 崎 小 学 校	4年	八幡 優心	「かあちゃん取扱説明書」を読んで
入 選	三 崎 小 学 校	3年	池浦 新大	「かあちゃんとりあつかいせつ明書」を読んで
	足 摺 岬 小 学 校	4年	戎井 陸人	『ともだちや』を読んで
	下ノ加江小学校	4年	仙石 美咲	やさしくせつする
	幡 陽 小 学 校	4年	江口 璃音	教室はまちがうところだを読んで
	清 水 小 学 校	4年	植垣 美海	「ジャコのおかしな学校」を読んで

### 【審査評】

- ・3年生は、原稿用紙が2枚から3枚と増えた分だけ自分の考えを書くのが難しかったように思う。
- ・忙しい中、各校で取り組みができていた。
- ・自分の思いは書けていたけど、あらすじをおうのが多かった。

## 第37回（平成30年度）土佐清水市読書感想文コンクール入選作品一覧

＜小学校高学年の部＞応募総数：171

	学校名	学年	氏名	題名
優 秀	清 水 小 学 校	5年	沖本 泰河	「夢や希望をもって」
	清 水 小 学 校	6年	鶴岡 桜季	シゲコさんと原子爆弾
入 選	下川口小学校	5年	近藤 心雪	「釜石の奇跡」を読んで
	清 水 小 学 校	5年	浦本 茜	努力の積み重ねは将来への一歩
	足摺岬小学校	6年	松下 歩	捨て犬たちとめざす明日
	幡 陽 小 学 校	6年	岡林 未嵐	思いやりのある仲間
	三 崎 小 学 校	6年	酒井 啓斗	心で感じてほしい本当の平和の本

### 【審査評】

- ・ 感想文の柱を決めて、伝えたいことが分かるように書くことが大事です。
- ・ 感想文を書くにあたって良い本を選んで書けていました。
- ・ 本文のしめくくりの心の変容が、もっとしっかりと書けていると良かったと思います。

## 第37回（平成30年度）土佐清水市読書感想文コンクール入選作品一覧

＜中学校の部＞応募総数：216

	学校名	学年	氏名	題名
最優秀	清水中学校	3年	岡 佳音	「思いを繋ぐ」
優 秀	清水中学校	1年	和泉 美来	「一瞬一瞬を大切に」
	清水中学校	3年	沖本 真理	「虹を見上げて」を読んで
入 選	清水中学校	1年	長崎 葵	「たった一つの小さな命」
	清水中学校	2年	沖田 音乃	「自分を見つめ直して」
	清水中学校	2年	吉名 遙	「私が偉人に学んだこと」

### 【審査評】

- ・一冊の本を通して、自分自身と向き合い、体験や生活を重ねて自分の思いをしっかりと書くことができていました。やや体験が多く感じられたので、読んだ感想を増やすとさらによくなると思います。また、本を通して見えてきた自分の目標に向かって努力していこうというたくましさも伝わってきました。本を読む素晴らしさに気付ける作品ばかりなので、ぜひ多くの人に読んでいただきたいと思います。

## 第37回（平成30年度）土佐清水市読書感想文コンクール入選作品一覧

<高等学校の部>応募総数：35

	学校名	学年	氏名	題名
優秀	清水高等学校	1年	岡林 美乃理	勇気の大切さ
入選	清水高等学校	1年	安岡 優香	「朝が来る」を読んで
	清水高等学校	1年	細川 優輝	君の臍臓をたべたい
	清水高等学校	1年	川田 麻莉	メロスと犍陀多の人間性について

### 【審査評】

- ・本年度は、世の中によく知られている作品をはじめ、「家族」について考察された物語や、病に冒されながらも強く生きようとするヒロインと彼女に寄り添う主人公を描く優しく切ない小説、また、ある哲学者から青年へ贈られる人生の指針となる言葉など、様々なテーマについて取り組まれており、自分の人生について少しずつ考え始める時期にある高校生らしい作品に、子どもたちの心身の成長が感じられました。  
これらのテーマを理解しながら、また共感しながら読み進めていくことはかなり難しいことだったのではないかと思います、これからの自分に対する教訓としてうまく取り入れることができているように思います。  
また、そこで感じた率直な思いや希望を自分の言葉で一生懸命に語ることでできていた点にも好感を覚えました。  
皆、自分と世界とをつなげられるこの素晴らしい読書体験を通してこころを豊かにし、視野を広げ、新しい価値観を持つことができたのではないのでしょうか。それらの経験を活かし今後の高校生活を実りあるものにしてほしいと思います。